

平成27年度第2回青梅市美術館運営委員会会議録

平成28年2月1日(月)
美術館第1研修室
会議時間 10:00~10:40
出席者 委員7名、教育長
教育部長、事務局4名

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議 題 事務局から説明
平成28年度青梅市立美術館事業計画(案)について 決定
- 5 報告事項
 - (1) 新収蔵作品について
事務局から説明 了承
 - (2) 特別展「町立湯河原美術館所蔵名品選」について
事務局から説明 了承

[主な質疑・応答・意見(議題、報告事項について)]

○平成28年度青梅市立美術館事業計画(案)について

(委員) 来年度計画されている展示会名について、ポスターやチラシを見た方が、関心を持って、行ってみたいと思うように、インパクトのあるキャッチコピーを付ければ来館者も増加すると思うがどうか。例えば、夏に開催予定の「山の日施行記念展」について、これが表題としてあるのは理解できるが、「家族で美術館に登山に行こう!!」では、展示内容がイメージできないと思う。

(事務局) 工夫を凝らして、分かりやすいサブタイトルを付けるようにしたい。

(委員) 小・中学校の造形作品展が開催されたが、私の知人の中に、開催場所が美術館ではなく、ボッパルトホールと誤っていた方が

いた。美術館でこのような展示会を行っていることをより多くの市民にPRしていく必要があると思うがどうか。

(事務局) 造形作品展は、毎年、観覧者数が三千人を超える展覧会で、今回は三千四百人余の来館があった。展示された児童・生徒の作品はどれも力作ぞろいで、また、児童・生徒の御両親や祖父母の皆さんも、美術館に自分の子や孫の作品が飾られたということで、大変喜ばれている。周知については、広報やホームページで行っているが、御指摘のとおり、より多くの市民の方に御来館いただけるよう周知方法を検討・模索していきたい。

(委員) 先ほどの質疑のように、単に「小学校造形作品展」ではなく、「心を育む」といった言葉を入れたサブタイトルを付ければ、さらにPR効果が増すのではないか。

(事務局) 参考にさせていただき、今後、工夫していきたい。

(委員) 2日間の展覧会なので、知ったときには終わっているというケースもあるのではないか。

(委員) (事務局に代わり答弁) 生徒、保護者に対しては十分周知は行き届いているが、学校から地域への「学校便り」等については、自治会の回覧で回ったときには終わっているというケースがあると思われるので、地域への周知も早めに行っていきたい。

(委員) 事業計画(案)の内容は、青梅の特徴を生かした良い企画だと思う。特に「懐かしの映画ポスター展(仮)」は、青梅商店街の昭和レトロ、映画看板の街並に合致した企画であるが、例えば、会期中に懐かしの映画を上映するといった連携した事業などは企画されているのか。

(事務局) 市民会館、美術館、郷土博物館は、文化課の所管である。「懐かしの映画ポスター展(仮)」の会期中に、市民会館では「懐かし映画会」として、映画を市民ホールで上映し、また、郷土博物館では映画関連の所蔵品を展示して、これらの事業を文化課3館の合同事業に位置付け、3館が連携し合って、広く市民にアピールしていく予定である。さらに、展示予定作品の中に吉川英治原作の「宮本武蔵」があり、吉川英治記念館にも映画関連の所蔵品があることから、同記念館では、3月1日からそれら

の所蔵品を展示する準備を進めているところである。

また、文化課3館および吉川英治記念館との連携事業に合わせてスタンプラリーも行い、それぞれの館への回遊性を高めていきたいと考えている。

(委員) 5月には青梅大祭もあり、青梅商店街とも連携していければよいと思うがどうか。

(事務局) 商工観光課を通して観光協会、また交流のある杉並区とは企画政策課を通して連携していきたい。また、この特別展以外の企画展についても、観光協会の協力を仰ぎ、文化課のみならず、市として、美術館事業を広く市民にアピールできるような方法を模索していきたい。

○新収蔵作品について

(委員) 寄贈された山口進の作品11点は額装されたものか。また保管場所は。

(事務局) シートの状態で寄贈された。また、現在、収蔵庫に保管している。

(委員) 山口進の作品の収蔵数が34点となった。今後、単独の展示会の開催は可能か。

(事務局) かなりコレクションとしては充実したものになった。今後、寄贈された作品を額装し、新規収蔵作品として公開したい。

(委員) 寄贈の申し出は、毎年、かなりの件数があるのか。

(事務局) 近年は少なくなってきており、年間を通して数件しかない。また、美術館の収集方針に合致しない作品の寄贈については、お断りしている。

○特別展「町立湯河原美術館所蔵名品選」について

(委員) 交換展ということで、青梅で「町立湯河原美術館所蔵名品選」を、湯河原で「青梅市立美術館名品展」を同時期に開催したが、それぞれの入館者数を比較すると湯河原の方がかなり多いが、その要因をどのように考えるか。

(事務局) 湯河原は観光地で、温泉への宿泊客も多く、また、美術鑑賞する時間も多く取れる。また、美術館前にはバス停もあり立ち寄りやすいといった利点もある。ただ、湯河原美術館も来館者数

が年々減少してきている中で、「青梅市立美術館名品展」については、来館者数が増えたということで、感謝の言葉をいただきました。

(委員) 当館から先方へはどのような作品を貸し出したのか。

(事務局) 小島善太郎や藤本能道の作品をはじめ、昨年開催した「日本画名品選」でも展示した上村松園や川合玉堂等、当館所蔵の名品をお貸しした。

(委員) 青梅を知っていただく意味でも、交換展は有意義な企画だったと思う。

6 その他

次回委員会の開催予定 平成28年4月25日(月) 午後2時

7 閉会